

## 「ウェブと情報技術をつかって資料と読者・著者を結びつける」

高久 雅生（物質・材料研究機構 科学情報室）

独立行政法人物質・材料研究機構（NIMS）は、茨城県つくば市に位置する、物質・材料の研究所である。その分野は主に材料科学、物理学と化学の3分野から成り、近年では、生化学や都市鉱山といった複合型の科学研究を行う研究所として、基礎から応用研究まで取り組んでいる。

NIMS 科学情報室では、材料科学の専門図書館を運営しながら、オンラインジャーナル等のサービスに注力するとともに、ウェブやポータルサイト運営も通じた基礎研究所ならではの情報提供と情報発信を行っている。

近年では、図書システム、機関リポジトリ、研究者総覧の3つのシステムを新たに開発導入し、それらを活用し、所内研究者への情報提供と研究活動の可視化・発信に役立てている。本報告ではこれらの取り組み事例を紹介する。

### 1) 機関リポジトリ（著者から社会への発信）

NIMS では、2008 年以来、ドイツ・マックスプランク研究所デジタルライブラリー部門と共同での機関リポジトリソフトウェア eSciDoc の開発に取り組んできた。これは、機関内で生産された研究論文を蓄積し公開することによって、機関の研究成果を広め、論文情報の情報発信力を高めることによって、研究成果の対外的な価値を高めるための試みである。くわえて、研究者にとっても、セルフアーカイブを通じた個別の研究論文、研究プロジェクト単位での、より使い勝手の高い発信環境とするべく、システム開発上の機能面、制度面から、いくつかの工夫を加えている。

### 2) 研究者総覧 SAMURAI（著者から社会への発信）

また、研究者個人個人の成果によりフォーカスを絞ったシステムとして、研究者総覧サービス SAMURAI も新たに開発し、これと eSciDoc 機関リポジトリシステムとを相互に連携させることにより、セルフアーカイブプラットフォームと個人研究者・研究グループの発信の場としての価値を高める工夫を加えている（図1）。

### 3) オープンソース図書館システム Enju（統合型ポータルと資料の探索へ）

2010 年度には、上記の2システムに加えて、新しいオープンソースソフトウェアの図書館システム Enju を導入し、統合型 OPAC と機関リポジトリ、外部システムとの連携を図る試みを行っている（図2）。



図 1 : 研究者総覧 SAMURAI による研究者プロフィール表示例

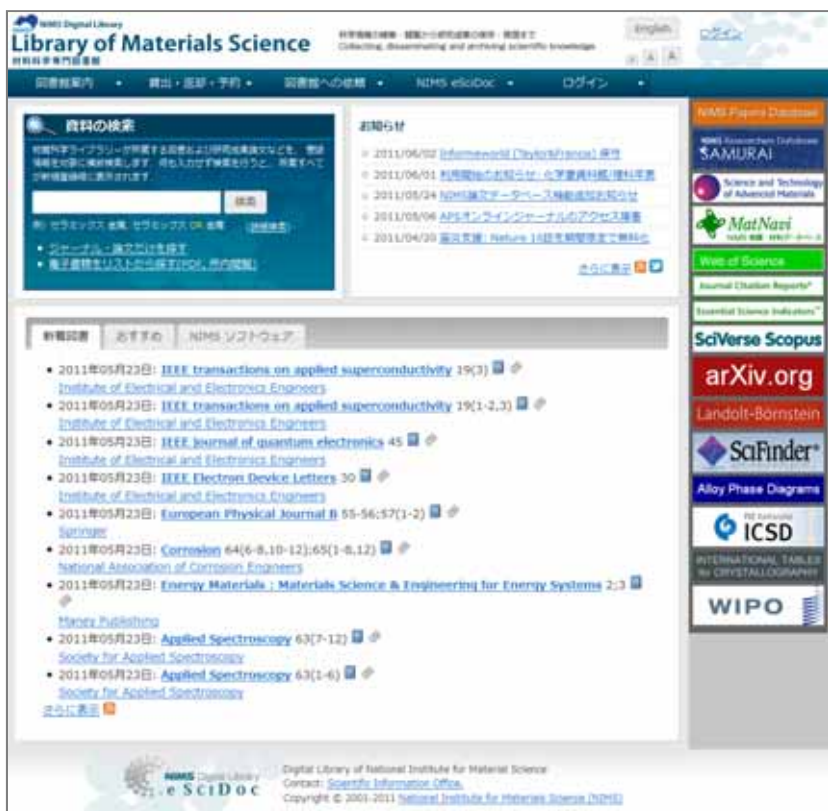


図 2 : Enju によるポータルサイトのトップページ (スクリーンショット)